令和６年度 第１回 横浜市中央卸売市場開設運営協議会会議録	
日　　時	令和６年 10 月 24 日（木）午前 10 時 00 分～午前 11 時 00 分
開催場所	横浜市中央卸売市場本場市場センタービル３階研修室
出 席 者	山下委員・高力委員・浪川委員・松﨑委員・松尾委員・善福委員・鈴木委員・布施委員・藤岡委員・明澤委員・出川委員（計 11 名）
欠 席 者	柴田委員・後藤委員・小島委員・山口委員・星野委員（計５名）
開催形態	公開（傍聴者０名）
議　　題	(1) 会長・副会長の選任について (2) 令和７年（2025 年）における臨時休場日及び臨時開場日の設定について
決定事項	(1) 会長は山下委員に、副会長は高力委員に決定した。 (2) 令和７年（2025 年）における臨時休場日及び臨時開場日の設定について、原案のとおり答申を行う。
報告事項	(1) 横浜市中央卸売市場経営展望 各戦略の取組状況について
資　　料	１．次第 ２．横浜市中央卸売市場運営協議会委員名簿（資料１） ３．座席表（資料２） ４．諮問文の写し（資料３） ５．令和７年（2025 年）における臨時休場日及び臨時開場日の設定について（資料４－１） ５．令和７年（2025 年）　臨時休場日・臨時開場日（青果部）【案】（資料４－２） ６．令和７年（2025 年）　臨時休場日・臨時開場日（水産物部）【案】（資料４－３） ７．令和７年（2025 年）　臨時休場日・臨時開場日（食肉部）【案】（資料４―４） ８．横浜市中央卸売市場経営展望　各戦略の取組状況について（資料５）

上記の内容に相違ないことを確認しました。

令和６年 11 月 19 日

横浜市中央卸売市場開設運営協議会　　会長　山下　東子

横浜市中央卸売市場開設運営協議会　　委員　布施　是清

議　　事
≪開会≫ 事務局より、今回から新たに委嘱された委員の紹介を行う。 市場担当理事が開会のあいさつを行い、議題へと進む。 【議題１：会長・副会長の選任について】 委員からの発言等はなし。そのため、事務局より会長については山下委員に、副会長については高力委員とすることを提案し、一同の賛成を得られたため、会長は山下委員、副会長は高力委員に決定した。 【議題２：令和７年（2025 年）における臨時休場日及び臨時開場日の設定について】 事務局より、資料３、資料４－１から４－４に基づき説明。 （質疑等） 山 下 会 長：事務局の説明について、ご意見やご質問等はございませんでしょうか。 委　　員：(特に意見等挙がらず) 山 下 会 長：ご意見等ないようでしたら、令和７年における臨時休場日及び臨時開場日の設定について事務局案を承認してよろしいでしょうか。 委　　員：異議なし。 山 下 会 長：ご異議がないようですので、案のとおり答申いたします。 【報告事項１：横浜市中央卸売市場経営展望　各戦略の取組状況について】 事務局より、資料５に基づき説明。 （質疑等） 山 下 会 長：事務局からの報告について、ご意見やご質問はございませんでしょうか。 藤 岡 委 員：これから横浜市場をどうしていくか、基本に返って考える必要があるのではないか。青果部でいえば、金港青果がなくなったことにより、取扱高、取扱金額が下がっている。その分はどの市場へ行ったのか。なぜ他の市場へ行ってしまったのか。これから議論を重ねて横浜市場の一層の活性化を考えていきたい。 高 力 委 員：今後どうしていくかということについて３点質問したい。１点目は、FOODEX JAPAN 2024 に出展し商談が実現したということだが、みなさんどういうニーズを持たれていたのか。商談会ではお互いのニーズのやり取りから未来が見えてくることもある。２点目は、消費者向けのイベントについて、毎回ルーティーンになってきていて、それはそれで素晴らしいことだと思うが、逆に言うとルーティーン化するだけでなく、そこに新しい取り組みや、効果のないものはやめる勇気な

ど、取捨選択が必要になってくるのではないか。３点目は、取引量と取引価格のバランスを考えたときに、理想は量も額も増ではあるが、今後は量よりも額、つまり質の担保であり、多々ある気候変動や災害などにどの程度対応し、高付加価値をしっかり提供できるかがポイントになると考えているが、これについてどう考えているか。

山下会長：食肉部について、当初想定した取扱量・金額より大幅に上振れしている。どうしてこのように増えているのか、どのように分析しているか教えてもらいたい。

事　務　局：FOODEX JAPAN 2024 での 27 件の商談成立とニーズについて、FOODEX JAPAN には国内のみならず海外からの顧客も来場しており、東南アジアからの水産物のニーズがあったと聞いている。また、イベントに新しい要素が必要ではないかというご指摘について、市場の認知度を上げていき、より生鮮食料品を消費していただくためにプロモーションを行っているため、ルーティーン化して浸透させていくということは非常に大事だと思っている。一方で、横浜市全体の中期計画の基本戦略に「子育てしたいまち、次世代を共に育むまち」が掲げられていることから、特に子育て世代やお子様への食育に力を入れている。例えば、今年度の市場まつりではお子様向けの食育エリアを展開し、小学校への出前授業で行った内容を小学生が発表する場を設けるとともに、魚を身近に感じてもらいお子様が楽しめるようなワークショップを実施するなど、より子育て世代、お子様を意識した取組を盛り込む予定である。

事　務　局：食肉部では卸会社が集荷対策に力を入れており、地方別フェアを開催するなどして集荷を増やしている。目標を定めており、月 1000 頭を必ず集荷する、現在は月 1100 頭の集荷を目標として取り組んでいる。また、新しい仲卸が参入したことで取扱高が増えている。

事　務　局：コロナ以前の食肉の取扱量は、平成 29 年度から令和元年度にかけて少しずつ減少しており、コロナ禍の令和２年度はさらに落ち込むという傾向にあった。これが増加に転じた要因として、コロナ禍の影響で外食よりも家庭で安い肉を食べる傾向となり、飲食店で扱う和牛がかなり減った一方で、一般家庭で安い交雑牛を買う流れが顕著になったと考えられる。これに伴いこれまで本市場では和牛を中心に扱っていたが、安価な交雑牛の取扱いが伸び、これに相まって、一昨年前に入居した新たな仲卸業者が、積極的に交雑牛を扱い食品スーパーで販売することで、トータルで取扱量が増加し、取扱金額も伸びたと分析している。しかし今後、長期的に考えると、円安の影響を受け減少していた輸入肉の動向が、長期的には円相場や TPP の影響などによりどうなるかわからない。今後しばらくこの状況を見る必要があると考えている。

事　務　局：「横浜市中央卸売市場経営展望」において、10年間の経営戦略を策定しており、今年が５年目にあたる。来年度は中間振り返りとともに、さらに次の10年間をどうしていくかの議論を始めていくことになると思う。その一つとして、指定管理者制度の導入といった民間活力の活用も検討していきたい。青果部でいうと、再編整備工事が来年には終わり、そこからまた攻めに転じていく。それに向けた市場の使い方を今まさに議論している。高力副会長からご発言のあった量と金額のバランスについて、横浜市も今後人口が減少するフェーズに入っており、お客様が減っていくということになる。今までと同じことをしていたのでは、食べる量が減っていくということで大変厳しいと考えられる。輸出やデジタル、脱炭素といった要素も交えながら、横浜市場としての様々な取り組みを進めていきたい。

藤 岡 委 員：人口は減っているが、青果はまだまだ余地はある。例えば横浜駅周辺の大手量販店はおそらく東京から仕入れている。その辺をひっくり返していく戦略を考えれば、横浜市場が伸びる余地はある。行政と一緒に考えていくべき。横浜市民に対し、横浜市場を経由したものを買いましょうという情報提供が必要ではないか。

山 下 会 長：ありがとうございます。来年度は経営展望の中間振り返り、見直しの時期。それに向けて皆様からお話を伺っていきたいと思っている。

ほかにはいかがでしょうか。では、ほかにご意見等はないようですので、「横浜市中央卸売市場経営展望　各戦略の取組状況について」を終了させていただきます。

山 下 会 長：それでは、本日予定しておりました議題及び報告事項は、以上のとおりでございます。本日の議事は、これをもって終了とさせていただきます。

【閉会】